

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100883		
法人名	医療法人 祐基会		
事業所名	グループホーム悠祐 1階		
所在地	熊本市中央区水前寺4丁目7-15		
自己評価作成日	平成26年11月28日	評価結果市町村受理日	平成27年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ 個人の背景を踏まえ、個人の意思を尊重した家庭的な雰囲気でのケアを行っている。日常的な場面から、共に生活する者として助け合い移乗や移動もその方の能力に応じた自立支援を行っている。掃除・洗濯干し・食器洗いなど可能な手伝いはお願いしている。
- ・ 医療法人である母体病院、帯山中央病院があり、連携により急変時の対応がスムーズである。
- ・ 法人内の臨床美術では臨床美術士が関わり、作品作りを五感を刺激し脳を活性化。上手い下手に捉われず表現できる開放感と、褒められる喜びが自身の存在価値を高め、生きる喜びが引き出される。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年100歳を筆頭として90歳台も多い中、残存能力の維持に向けた取り組みは認知症進行防止として生かされ、継続して取り組む臨床美術も100歳となった今でも認知症状の改善として実証されている。今年は職員の入れ替わりはあるものの、入居者は年を重ねても大きな変化も無く過ごされる生活に、入居者個々の生活背景を理解し、全員が切磋琢磨しながらケアに努めている成果であると言える。また、健康管理の徹底及び母体病院との連携等入居者の安心した暮らしをサポートしている。職員の様々な観点からの情報収集の他、散歩気分を味わってもらいたいとしてベランダの改修や、一緒に歌うことで小さな記憶を思い起こさせピアノを弾くようになった入居者等に職員のケア姿勢が表れている。職員の明るいケアのもと、入居者も「ありがとう」等労いや感謝を持つ等、入居者と職員とが家族のように今を共にするホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーに理念の掲示を行い、朝礼時に唱和している。ケアを実施する判断基準は、理念にあることを共通の認識として理解を日々、共有している。	法人理念である“幸せのおもてなし”をもとに、開設時よりの理念を継続している。入居者と出来る事を一緒に行うことで認知症進行防止への一環とし、入居者一人ひとりの生活背景を理解したケアや声かけ等を共有したケアが尊厳ある生活に生かされている。理念である残存能力の発揮、維持できる環境には日常生活に加え臨床美術の継続等理念を反映させ、ユニット会議や全体会議を振り返りの場としている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧版のやり取りや自治会・近隣幼稚園の定期的な訪問をしたり、地域文化祭への作品出品など交流を深めている。	自治会に加入し、隣保班の一員として回覧板の受け渡しや、老人会の慰問、病院受診等地域と関わる機会を作っている。地域の運動会参加や文化祭にはバザーに出品し入居者と共に出かけ、地域住民との交流に努めている。	立地条件から、近隣を散歩できる環境にない。今後、自治会活動に関わることで防災面での協力体制を築く意向であり、老人会等の人脈を生かし、地域住民に訪問していただけるような対策を検討されることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で事例をあげ、認知症の方への理解、症状や地域における認識の理解を話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態・行事やボランティア状況の報告を行い、意見を伺いながらサービスの向上に努めている。	2ヵ月毎に開催している運営推進会議は、ユニット毎の状況報告やプロジェクトを用いながら説明し、意見交換が行われている。行政からの定期的な参加や、地域からの委員の参加も減少傾向にあり、改めてこの会議の役割や意義を説明し開催している。次回はクリスマス会を組み込み、地域住民との交流とすることが企画されている。	運営推進会議をサービス向上に反映させたいとの意向であり、日程や進め方について、再度検討されることが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の定期訪問や地域包括・行政機関への報告を行っている。	介護相談員制度を利用し報告書をもとにサービスに反映させたり、行政が開催する集団指導への参加や書類提出に出かけ情報を発信している。また、地域包括支援センターからの利用相談等もあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内にて身体拘束の基本的な理解について勉強会を行い、身体拘束を行わないケアに努めている。	全体会議の中で身体拘束の具体的な行為（3大ロック等）や弊害を学んでいる。入居者個々の帰宅願望や外出傾向を把握し、見守りを徹底しているが、道路に面したホームであり、安全面から職員体制や入居者の状況により時間的な施錠を行うこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会を適宜行い、職員へのヒアリングを行いながら虐待の予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行いながら、地域・ご家族からの相談依頼に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居面談、入居契約時に書面を通して説明と同意を得ながら行い、変更や改定時も同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やケアプラン説明時、面会時にコミュニケーションをとり、ご意見を伺っている。	職員は日々入居者に寄り添いながら、要望等を聞き取りしている。家族には訪問時に状況を説明し、意見や要望を収集している。また、請求書と共に近況報告・人事・運営推進会議録等の送付により家族との共有化を図っている。運営推進会議も家族の意見の収集の場として生かされており、家族会を発売にすることなどが提案されている。苦情処理マニュアルを整備し、外部からの苦情も精査し、運営推進会議を公開の場として報告し、意見を求める事としている。	クリスマス会が企画されており、この機会に家族同士の意見交換の時間を作られることを期待したい。家族の忌憚の無い意見や要望を収集し、ホーム運営に反映されることが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や全体会議、朝礼時を利用し、職員の意見を聞きながらサービスの向上に反映できる様にしている。	管理者は朝礼や全体会議・ユニット会議等職員の意見や提案する機会作り、職員は申し送りノートによりケアや業務の共有化に努めている。職員の家庭環境に応じた勤務調整や、希望休などお互い譲り合う等協力し、役割分担も明確にしながら働き甲斐のある職場環境を整えている。管理者変更に伴い、個別面談が予定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のチャレンジシートをもとに目標、実施、評価を面接しながら行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修や外部の研修の機会を作り、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や会議で勉強会や情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時から契約をする過程で尊厳を尊重し、本人へのコミュニケーションを図りながら安心を確保するために努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時から契約を行う過程において介護するご家族の意向を確実に言いながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ご家族の状況や希望を伺いながら必要な支援をプランへ反映出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共有する場面を築くため、掃除・草取り・食器洗い・洗濯干しなど入居者が一緒に過ごされ、お互いに助け、助けられる関係を作る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、施設内のイベントに参加して頂き、絆を大切にできるよう関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活背景をできるだけ把握し、家族と共に社会参加へのつながりを保てるよう	入居者のこれまでのバックグラウンドを把握しケアに反映させている。山登りを趣味として阿蘇山に姉妹で登ったり、家族との墓参、生まれ育った場所へ姉妹で出向く方等馴染みの関係性を継続している。また、白寿祝いや誕生会には家族も参加され、編み物・パッチワーク等趣味の継続等大切にされてきた場所のみならず趣味・慣習等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の共有のスペースの中での臨床美術やその他、同じ作業、レクリエーションを通して入居者同士がコミュニケーションを図れるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も便りやイベントへのご案内を差し上げる、入院先を訪問するなどし関係を保てるように工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの難しい方には、日常の支援の中から表情や言動、生活背景をもとにアセスメントし、本人の意向に沿えるような支援を心掛けている。	アセスメントで得た情報や、職員は入居者との会話の中から思い等引出し、時には選択肢を投げかけ個別性を引き出すよう工夫している。場所を口にされることを聞き取りし、家族に協力を得て出向く等本人本位になるよう支援している。独語や理解が難しい場合でも笑顔をバロメーターとして推察しケアに繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からじょうほうを収集し、生活背景、歴史を中心に入居前の生活の継続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の過ごし方を各種記録を通して個別に応じた支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議、アセスメントを行い職員全員でモニタリングを実施して意見やアイデアを取り入れている。	入居当初は1ヵ月と短い暫定プランのもと、まずは本人を知る期間としてユニット会議により各職員の意見をもとに正式なプランを作成している。毎月のユニット会議での話し合いや3ヶ月毎の担当職員及びケアマネジャーとしてのモニタリング、半年毎に本人・家族・施設長・リーダーとケアマネジャーとの担当者会議により新たなプランを作成している。入退院等大きな変化には随時見直しており、個別的・具体的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・睡眠等のチェック表を個別記録し、体重変化や身体症状を観察、記載し、ケアに繋げていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	症状の変化に応じての対応は専門往診機関との連携に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	臨床美術の展覧会や地域の文化祭を通して参画することで地域への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体症状含めて変化のあった際は、ご家族に報告し、必要な情報の選択を提案し、以降に沿った関係機関との連携の実践に努めている。	入居時に母体が医療機関があることを伝え、月2回の訪問診療や、協力医(専門科)による往診でよいか確認し了承を得ている。入居者の中にはこれまでのかかりつけ医(専門科)へ受診される方もおられる。また、皮膚科往診や訪問歯科など、個々に応じた医療を支援している。ホームでは9時半と15時の検温や表情観察などから健康状態を確認し、家族へも電話連絡を小まめに行い情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で変化、情報に対して常に看護師との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の連携の中で相談員、看護師との関係を日々築きながら関係を保持している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談や契約時、入居者の変化により、ご家族に適宜情報を与えながら、本人、家族が同意・納得できるようにしている。また、その関係作りに努め、地域、連携機関との確認を行っている。	入居時に重度化した場合における介護についての同意書で確認を行い、事前指定書も作成されている。施設長へのオンコール体制や訪問診療で医療面で支えながら、現在は一人ひとりの尊厳に配慮しながら職員の観察力のアップに努め、出来る介護を支援している。この一年では家族の協力も得、リビング内にある畳スペースでギリギリまで支援し、最終を医療機関で迎えられた事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニット会議、全体会議で定期的に急変時の対応についての勉強会を行っている。また、対応マニュアルのシュミレーションを行い、イメージトレーニングを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の自主訓練と消防署立ち会いで総合訓練を行っている。常に事例を想定したシュミレーションをどのスタッフでも対応できるよう適宜行っていくよう努めている。施設内に水や食料の備蓄を整備。	自主訓練を含め年2回の火災対応訓練が実施されている。11月の消防署立ち合いの訓練では、火元に近い居室の入居者から避難を誘導したことが評価され、火元近くを通過するの避難について指導を受け、今後活かすことが共有されている。備蓄食として、乾パンや水などが準備され職員も周知している。夜勤者は定時(21時)に施設長へ入居者の状態を含め連絡が行われており、年末には連絡網の訓練が予定されている。	夜勤職員の負担軽減にも繋がるよう、地域との協力体制の強化や緊急避難場所の確認、自然災害についても、机上を含め研修や訓練に期待したい。また、今後は火元の場所をシュミレーションして、最善の避難方法をとっていくことを計画中であり、実現が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴の姿勢で丁寧な対応を心がけるようにしている。	入居者のこれまでの人生に尊敬の念を持ち、傾聴の姿勢でゆっくりと丁寧な対応が共有されている。呼称は苗字や下の名前など個々に応じ安心される呼び方で対応している。個人情報や守秘義務について、入職時の指導や会議の中で周知徹底されており、家族にも写真や運営推進会議録など個人情報について、了承のもと使用されている。	居室やトイレ入室時のノックは指導されているが、特にトイレについては、声かけやノックの後、ゆっくりと戸を開けるなど細やかな徹底に期待したい。また、入浴時の同性介助については、機会あるときに本人や家族にも確認されることを望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の想いを早めに察知することが出来る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ピアノを弾いたり、編み物をしたり居室で好きなテレビを見たりと思い思いの活動を行って頂く支援をする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に気を配り、出来る限り本人の要望にかなう身だしなみや季節感に合う支援に心がける。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを伝え、入居者さんと一緒に楽しく食事をする。お盆拭き、テーブル拭き等の手伝い出来るよう、支援していく。	業者による献立作成や食材が配達され、昼・夜は専任者が中心に調理を行っている。嚥下力に配慮した食形態や、一口大のおにぎりの準備、身体状況でご飯の量を加減するなど個々に応じた対応である。また、月1回ホームメニューの日を設け、誕生会食には手作りケーキや本人の希望を取り入れており、一緒に会に参加される家族もおられる。職員は一緒に食事を摂ることで、好みを把握したり、コミュニケーションも深まっている。入居者は食後のお盆や台ふきなどできることで食へ関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量、体重の把握を行い、入居者さんの好みや習慣に合うよう心掛ける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア後、口腔内の状態を確認し、清潔保持を心がける。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人、排泄パターンが異なる為、尿意・便意がある方、ない方も排泄の訴えがあったらトイレに誘導している。排便コントロールをしっかりと、失敗がないよう心掛けている。	入居者の中には自立の方もおられその継続や、パターンの把握により、声かけ・誘導により全員トイレでの排泄が支援されている。排泄用品も状況に応じて検討され、入院された方が退院時はおむつの場合も、トイレ誘導に努め以前のスタイルに戻すなど、職員のケア力が発揮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全利用者に水分を摂って頂くよう声かけを行っている。日中、傾眠ある時は覚醒を促し、レクリエーションを行ったり、体を動かして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけを行い、拒否はあまりないが、入浴時間をゆっくりととり、利用者に合わせて入浴している。体調不良や気が進まない日は日にちをずらしている。	『若がえりの湯』の暖簾が下げられた浴室で、午前を中心に週3回程の入浴や必要に応じた足浴支援が実施されている。入居者は職員の優しい声掛けで浴室へ向かわれる姿があった。記録から「風呂がとても気持ち良い」など、入居者が入浴を楽しまれていることが確認できた。	入居者は好みや使い慣れたシャンプーやボディソープなどを使用され、それぞれカゴに入れ浴室の壁に取り付けられている。湯船に浸かった時にややもすると、人数分のかごは圧迫感にも繋がると思われる。脱衣所などに収納し、必要時に準備するなど改善が必要と思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は室内、寝具調節をしている日中、食後はみなさん自室に戻り、ゆっくりして頂いて体を休めてもらっている。安静臥床への抵抗があらわれる方は、新聞を読んだりして利用者に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬がそれぞれ違う為、誤薬事故がないよう、スタッフ2人で確認して服薬の介助を行っている。個人ファイルに目を通し、薬の内容の把握に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や楽しみとなるような手伝いをして頂いている。洗濯物たたみや食後のお盆拭きなど負担にならないよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から車椅子を使用している入居者の方にも楽しんでもらえるよう外出を支援し、季節を感じてもらっている。また、外食することで普段食べない料理を食べて頂き、個人に合った楽しみを見出す。	ホームは目の前が道路に面しており、その日の希望にそった日常的な外出は困難な状況であり、日向ぼっこや散歩気分を味わえるよう、ベランダ側の整備が行われている。また、受診支援後に軽くドライブをしたり、職員同行による買い物など可能な限り対応している。動植物園へ出かけた際は、ファストフード食を楽しむなど、新しい取り組みが好評であった様である。普段より家族の協力での外出や外泊の他、正月に帰省し、おせちで新年を祝いホームに帰って来られる方もおられる。	外出傾向の方もおられるようであり、安定した生活に繋げるためにも、引き続き庭先や玄関先に出て外気に触れるなど、身近な外出支援に期待したい。また、検討会議録には「駄菓子屋さんに行きたい！」の要望も記されており、実現が待たれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物を買いに一緒に薬局へ行き、お金を払い、おつりをもらうことをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話に出て頂き、会話をされたり電話の希望のある時は電話をかけて会話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるよう、机の配置の工夫や季節感を取り入れた入居者の作られた臨床美術の作品を飾ったり、手作りカレンダーを貼ったりと心地よく過ごせるような工夫を行っている。	ホームの玄関や1階から2階へ続く階段には、季節毎に入居者の臨床美術の作品が掲示され、誰もが上り下りが楽しみなる空間となっている。ピアノで得意の演奏を披露される方や、新聞購読を日課とされてきた方には、地方紙を準備するなど、リビングホールでは入居者の楽しめる時間が繰り広げられている。段上がりの畳の間は休憩や夜間寝付けられない方へ、職員が見守りながらの就寝スペースとしても活用されている。	空調管理や掃除の徹底など、入居者の居心地のよい空間作りが確認された。夏場はゴーヤのカーテンで日差しを避けるなど工夫されているが、他の時期は薄地のカーテンを閉め、日中を過ごされることが多いようである。遮光の窓やフィルムなど、外を眺めることのできる対策について検討されることに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの好きな方は一番見えやすい位置に座って頂き、また、編み物が好きな方は集中して出来るよう居室にもテーブルなどを置き、気分転換を行って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある物、使い慣れた家具などを使用されている。壁やカーテンの色も自然な落ち着いた色を使用。	居室のカーテンや壁紙は落ち着いた配色でまとめられている。廊下の照明で不穏になられる方の入口には切り絵や布地の目隠しで配慮され、これからの寒い時期には希望に応じて湯たんぽを準備するなど、個々に応じた安眠を支援している。居室には使い慣れた化粧品が並んでいたり、家族の持参した布地を使って趣味のパッチワークを楽しまれる方もおられ、ソファカバーやバックなどの作品が完成している。「私のところに寄ってください！」と、誘導された入居者の表情からも、過ごしやすい自室になっていることが窺い知れた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身長に合ったベッド、各個人の車椅子、押し車、杖など使用して頂く。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100883		
法人名	医療法人 祐基会		
事業所名	グループホーム悠祐 2階		
所在地	熊本市中央区水前寺4丁目7-15		
自己評価作成日	平成26年11月28日	評価結果市町村受理日	平成27年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ 個人の背景を踏まえ、個人の意思を尊重した家庭的な雰囲気でのケアを行っている。日常的な場面から、共に生活する者として助け合い移乗や移動もその方の能力に応じた自立支援を行っている。掃除・洗濯干し・食器洗いなど可能な手伝いはお願いしている。

・ 医療法人である母体病院、常山中央病院があり、連携により急変時の対応がスムーズである。

・ 法人内の臨床美術では臨床美術士が関わり、作品作りを五感を刺激し脳を活性化する。上手い下手に捉われず表現できる開放感と、褒められる喜びが自身の存在価値を高め、生きる喜びが引き出される。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーに理念の掲示を行い、朝礼時に唱和している。ケアを実施する判断基準は、理念にあることを共通の認識として理解を日々、共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧版のやり取りや自治会・近隣幼稚園の定期的な訪問をしたり、地域文化祭への作品出品など交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で事例をあげ、認知症の方への理解、症状や地域における認識の理解を話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態・行事やボランティア状況の報告を行い、意見を伺いながらサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の定期訪問や地域包括・行政機関への報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内にて身体拘束の基本的な理解について勉強会を行い、身体拘束を行わないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会を適宜行い、職員へのヒアリングを行いながら虐待の予防に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行いながら、地域・ご家族からの相談依頼に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居面談、入居契約時に書面を通して説明と同意を得ながら行い、変更や改定時も同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やケアプラン説明時、面会時にコミュニケーションをとり、ご意見を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や全体会議、朝礼時を利用し、職員の意見を聞きながらサービスの向上に反映できる様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のチャレンジシートをもとに目標、実施、評価を面談しながら行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修や外部の研修の機会を作り、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や会議で勉強会や情報交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時から契約をする過程で尊厳を尊重し、本人へのコミュニケーションを図りながら安心を確保するために努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時から契約を行う過程において介護するご家族の意向を確実にしながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ご家族の状況や希望を伺いながら必要な支援をプランへ反映出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共有する場面を築くため、掃除・草取り・食器洗い・洗濯干しなど入居者が一緒に過ごされ、お互いに助け、助けられる関係を作る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、施設内のイベントに参加して頂き、絆を大切にできるよう関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活背景をできるだけ把握し、家族と共に社会参加へのつながりを保てるよう		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の共有のスペースの中での臨床美術やその他、同じ作業、レクリエーションを通して入居者同士がコミュニケーションを図れるように関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も便りやイベントへのご案内を差し上げる、入院先を訪問するなどし関係を保てるように工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの難しい方には、日常の支援の中から表情や言動、生活背景をもとにアセスメントし、本人の意向に沿えるような支援を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からじょうほうを収集し、生活背景、歴史を中心に入居前の生活の継続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の過ごし方を各種記録を通して個別に応じた支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議、アセスメントを行い職員全員でモニタリングを実施して意見やアイデアを取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・睡眠等のチェック表を個別記録し、体重変化や身体症状を観察、記載し、ケアに繋げていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	症状の変化に応じての対応は専門往診機関との連携に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	臨床美術の展覧会や地域の文化祭を通して参画することで地域への参加を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体症状含めて変化のあった際は、ご家族に報告し、必要な情報の選択を提案し、以降に沿った関係機関との連携の実践に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関りの中で変化、情報に対して常に看護師との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の連携の中で相談員、看護師との関係を日々築きながら関係を保持している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談や契約時、入居者の変化により、ご家族に適宜情報を与えながら、本人、家族が同意・納得できるようにしている。また、その関係作りに努め、地域、連携機関との確認を行っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニット会議、全体会議で定期的に急変時の対応についての勉強会を行っている。また、対応マニュアルのシュミレーションを行い、イメージトレーニングを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の自主訓練と消防署立ち会いで総合訓練を行っている。常に事例を想定したシュミレーションをどのスタッフでも対応できるよう適宜行っていくよう努めている。施設内に水や食料の備蓄を整備。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を損なわない接し方をするように努めている。入浴や排泄時の声かけは羞恥心を配慮して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時や15時のお茶やおやつ時は好みを聞き入れるようにしている。誕生会では食べたい物を聞いてメニューを考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に合わせてレクリエーションや臨床美術の参加をして頂き、参加は強制的なものではないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに化粧品を置き、誕生会やマニキュアを行い、おしゃれをして頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さまと一緒にスタッフも食事を楽しみ、会話し、「今日の食事はどうでしたか」等、質問し、答えて頂く。出来る方には食器洗い、テーブル拭きやお盆拭きをして頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分の摂取量を毎食後、チェック表に記入して管理している。全食摂取される様一人一人に注意をし、支援している。チェックをすることで水分補給の促しを意識出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、自力で出来ない方はスタッフが丁寧に口腔ケアを行う。残差物がないかも必ず確認する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して個人の排泄パターンを把握している。ズボンの上げ下げやペーパーで拭く、などできることはして頂き、自立支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や昼食前には運動をしている。各スタッフが意見を出し合い、便秘の際は悪影響を及ぼすため個々にあった服薬の仕方の仕方をを行う。トイレに座られた際、マッサージやウォシュレットの使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯を変えるということはなかなか難しく、午前中に限られてしまう。声かけや誘導の仕方を工夫し、会話、歌などを取り入れ楽しく、不安を与えないようにしている。個人の体調や気分に合わせて入浴して頂くよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれず、本人のペースで休息をとって頂く様にしている。居室のベッドだけでなく、共有のスペースである畳の間でも休息がとれ、本人の希望や状況を考慮し、柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に新しい薬情報をカルテにはさみ、常に回覧できるようにし、変更あれば記録、申送りを徹底している。薬は薬剤師によりセットしており、服薬介助は必ずダブルチェックしてサインをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事(洗濯、皿洗い、掃除等)出来る範囲で役割を持たせ、張り合いのある生活になるよう支援している。また、生活歴から好きだった飲み物を提供したり、得意だった料理をしてもらうなど楽しみを増やす努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	勤務上、その日の希望に沿っての外出は難しいが事前に予定を組んでお花見や初詣などに行き、季節を感じて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭に関しては職員で管理している。ご本人より希望ある場合は購入したり、一緒に買い物へ行くなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい、という希望はない。毎年、自分で書かれた年賀状をご家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう季節感を感じられる絵を描いたカレンダーをリビングに貼っている。季節に合わせた物や入居者が手作りした物を飾るようにし、生活館を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに広いテーブルを配置し、固定化せずに状況に合わせて席替えするなどの工夫をしている。和室に移動して頂き		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用されていた家具を持ち込み、家にいるようにリラックスして過ごして頂き、家族の写真や思い出の品を飾り、個性を感じる部屋づくりの工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やフロアに無駄な物をおかず、広々として歩きやすい環境を保っている。居室の入り口に本人の作品を貼り、自分の部屋の目印にしている。		